

# 第66回 ISO/TMB (技術管理評議会)報告

經濟産業省 産業技術環境局  
国際標準課  
平成28年7月

## 目次

1. ～ 5. TMB横断的業務
6. ～ 8. 分野横断的標準化案件
9. 個別TC/SC案件

## TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介

### 1. 任務

- ISO規格作成に関する管理事務的事項
  - ✓ TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC専門業務指針の改訂等
- ISO規格作成に関する戦略的事項
  - ✓ TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

### 2. メンバー

- TMB議長: Elisabeth Stampfl-Blaha (オーストリア)
- TMBメンバー (15名) :  
Steve Cornish (米), Amanda Richardson (英), Bohnsack, Ulrike (独), Alain Costes (仏), 福田 (日), Chenguang Guo (中) , Ms. Beskow, Cecilia (スウェーデン), Urs Fischer (スイス), Susanna Vahtila (フィンランド), Heleen Temple (南ア), Claudio Guerreiro (ブラジル), Adrian O'Connell (豪), Ridzwan Kasim (マレーシア), Anton P. Shalaev (ロシア), CHUN, JIN SU(韓)
- ISO中央事務局 :  
事務局次長 : Kevin Mckinley (2015年8月から事務局長代理)  
TMB事務局 : Sophie Clivio, Belinda Cleffland, Mikaela Arvonen

2

## T M B 横断的業務

3

## 1. TC/SC総会へのWeb会議システムを活用した遠隔参加の推進 <TMB Resolutions 70/2016>

- 遠隔参加の導入に関するパイロット・プロジェクトの結果を踏まえ、TC/SC総会へのWeb会議システムを活用した遠隔参加も可とするポリシーを合意。
- 次回、本年9月のTMB会合までに、パイロット・プロジェクトから得られたフィードバックを分析し、遠隔参加のガイドラインを適宜改定することをTMB事務局に依頼。

### ✓ 背景

- 従来から、ワーキング・グループ（WG）会合への遠隔参加は推奨され、運用が進んでいる。
- TC/SCの総会では委員会内投票を行うなど、正式なプロセスも含まれるところ、遠隔参加を導入することに関するパイロット・プロジェクトを実施。

4

## 2. ISO規格に関するハンドブック開発プロセスの改善 <TMB Resolutions 68/2016>

- ISO規格に関するハンドブックの適切な開発のため、改善策について検討・合意。

### 【改善策ポイント】

- ✓ 開発のニーズを特定するスタート段階で関係するTC/SCから承認を得ること
- ✓ 執筆者を決める際に関係するTC/SCに意見照会をすること
- ✓ 出版前に内容をレビューするパネルにTC/SCの関係者が入り、TC/SCの代表に内容の最終確認を取るプロセスとすること

### ✓ 背景

- ハンドブックの開発に関して当該ISO規格を開発した技術委員会（TC/SC）の関与が不十分であったため、ハンドブックの内容が不適切であるとのクレームがあった。

5

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その1

- ISO/IECプロジェクト・マネジメントWSにおけるアウトカム3点について議論し、今後の対応方針について合意。
- 対応方針
  - ① "Do's and Don'ts in project management"  
→ベストプラクティスとしてTC/SCに提供しフィードバックを求める。
  - ② "Wish list of improvement"及び
  - ③ "Roles in culture changes"  
→TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく。
- ✓ ISO/IECプロジェクト・マネジメントWSとは
  - ISO/IECにおける国際標準策定のプロジェクト・マネジメントの向上を目的として、本年4月5～6日にジュネーブにて開催。ISO/IECの技術委員会の議長・国際幹事等の参加の下、ベストプラクティスを共有し今後の課題等について議論。

6

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その2 - 1

【アウトカム①】 "Do's and Don'ts in project management"  
→ベストプラクティスとしてTC/SCに提供しフィードバックを求める

#### 1) 新規項目提案 (NP) を提出する前に

- ✓ NP提出の前にTC/SCのセクレタリーに相談し、委員会内で事前の根回し
- ✓ NPの際、Preliminary Work Item (PWI)での当該分野のビジネスケース等々の情報を共有
- ✓ NPの提出様式 (From 4) は、セクレタリーがチェックするだけでなく、Chair's Advisory Group (CAG)、TPM等にも事前に意見照会
- ✓ NPの際、リエゾンなど他機関の標準化活動の動向も積極的に情報収集するとともにNPをリエゾン等に配布してフィードバックを得る

7

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その2 - 2

【アウトカム①】 ”Do’s and Don’ts in project management”

→ベストプラクティスとしてTC/SCに提供しフィードバックを求める

#### 2) 新プロジェクトが始まった後に

- ✓ 詳細なワークプランを作り、関係者間で確認
- ✓ プロジェクトリーダー（PL）として必要なスキルのあることを確認するとともにソフト・スキルについて必要に応じて研修を受講
- ✓ 早い段階から幅広い関係者（ステークホルダー）の参画を確保するようプロジェクト・マーケティング活動を推進

8

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その2 - 3

【アウトカム①】 ”Do’s and Don’ts in project management”

→ベストプラクティスとしてTC/SCに提供しフィードバックを求める

#### 3) 規格策定の過程で

- ✓ 規格策定の動向を広報し、マーケットからのフィードバックを早い段階から募る
- ✓ 規格策定作業を閉じた世界で、孤立化して行わないようにする

9

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その2 - 4

【アウトカム①】 "Do's and Don'ts in project management"

→ベストプラクティスとしてTC/SCに提供しフィードバックを求める

#### 4) 規格発行の後で

- ✓ マーケットからのフィードバック（規格策定プロジェクトのどこが成功したところで、どこが今後の改訂の際の教訓とすべきところか等）を収集

10

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その3 - 1

【アウトカム②】 "Wish list of improvement"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 1) 役割

- ✓ ISO/ I E Cメンバー・国内審議委員会が、その国が任命するISO/IEC委員会の議長、国際幹事、コンビナーに対して十分な研修を提供
- ✓ ISO/IEC委員会の役職に"certificates"を発行（例："certified ISO/IEC Project Leader"、"certified ISO/IEC Secretary"）
- ✓ ISO/IEC中央事務局のeditorがcommittee draft(CD)の早い段階から関与

11

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その3 - 2

#### 【アウトカム②】 "Wish list of improvement"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 2) ルール・プロセス

- ✓ 提出されたコメントがどのように取り扱われたかにつき、より透明性をもって公表
- ✓ ISO規格開発期間の制限を撤廃（より機動的なISO規格の開発を可能とする）
- ✓ ISO規格の限定的な部分の改正をより短期間でできるように
- ✓ ISO/IEC委員会間の調整と情報共有をより簡便にできるように

12

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その3 - 3

#### 【アウトカム②】 "Wish list of improvement"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 3) ITの活用

- ✓ よりユーザーフレンドリーなISO規格開発プロジェクト・マネジメントの支援ためのITツールの開発
- ✓ 規格開発プロセス全体にわたって使えるようなITツールの開発
- ✓ オンラインでediting/commentingができるようなより便利なITツールの開発

13

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その3 - 4

#### 【アウトカム②】 "Wish list of improvement"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 4) 研修

- ✓ プロジェクトリーダー（PL）、コンビナー向けのプロジェクトマネジメント・ソフトウェア研修プログラムの整備・提供
- ✓ 交渉スキル・conflict managementの研修プログラムの整備・提供
- ✓ Web会議のやり方の研修プログラムの整備・提供

14

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その3 - 5

#### 【アウトカム②】 "Wish list of improvement"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 5) コミュニケーション

- ✓ 会議と研修の実施に関する地域ハブの設置
- ✓ 24時間の遠隔オンライン会議（時差があっても24時間以内にオンラインでコメントできるような遠隔会議の開催方法の一つ）の採用

15



### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その3 - 6

#### 【アウトカム②】 "Wish list of improvement"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 6) ステークホルダーの関与

- ✓ 会議と研修の実施に関する地域ハブの設置より積極的なステークホルダー（中小企業を含む）の関与の強化

16

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その4 - 1

#### 【アウトカム③】 "Roles in culture changes"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 1) ISO/IECメンバー

- ✓ TMB/SMBのメッセージを自国の議長、国際幹事、コンビナー、プロジェクトリーダー(PL)、エキスパートに周知徹底
- ✓ ISO/IECの標準化に関与する人材に対して自国で必要な研修を供与

17

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その4 - 2

#### 【アウトカム③】 "Roles in culture changes"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 2) TMB/SMBメンバー

- ✓ ISO/IECにおける規格開発のculture changeを支援
- ✓ 良好事例の共有

18

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その4 - 3

#### 【アウトカム③】 "Roles in culture changes"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 3) ISO/IEC中央事務局

- ✓ training of the trainersのための研修ツールの供与

#### 4) TPM/TO

- ✓ 担当する委員会の国際幹事と協力して委員会（TC/SC）内のコミュニケーション戦略を策定
- ✓ TMB/SMBの決議を担当する委員会に周知徹底

19

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その4 - 4

#### 【アウトカム③】 "Roles in culture changes"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 5) 国際幹事

- ✓ 委員会内のプロジェクトマネジメントを推進
- ✓ 担当のTPM/TOと協力して委員会内のコミュニケーション戦略を策定
- ✓ 国際幹事間で経験を共有

20

### 3. ISO/IECプロジェクト・マネジメントに関するワークショップの結果のフォローアップ<TMB Resolution 67/2016> その4 - 6

#### 【アウトカム③】 "Roles in culture changes"

→ TMBのプロジェクト・マネジメント向上の取組みの中で実行すべき具体的アクションについて検討していく

#### 6) 議長

- ✓ ビジョンを策定し委員会内のculture changeをリード
- ✓ 委員会内のコミュニケーションと活動を活性化
- ✓ 議長間で経験を共有

#### 7) コンビナー

- ✓ ワーキンググループ (WG) 内のコミュニケーションと活動を活性化
- ✓ コンビナー間で経験を共有

21

## 4. ISO規格開発リードタイム削減提案

- 開発リードタイム（開発期間を何ヶ月プロジェクトとするか）の選択肢に18ヶ月を追加し、18ヶ月、24ヶ月、36ヶ月、48ヶ月の4 選択肢とする独提案を承認。
- 36ヶ月がデフォルトであるところ、最長の48ヶ月を選択する場合でもTMBの承認は不要である旨合意。個別の規格開発事情に応じ、TC/SCがISO/CSのTMBと相談して適切な開発トラックを選択すべきとの理由。

22

## 5. ISO/IECガイドの定期レビューの結果（確認・改訂） <TMB Resolutions 77, 78/2016>

- Systematic reviewの結果、以下のISO/IECガイドの確認を決定。
  - ✓ ISO/IEC Guide 2:2004（標準化及び関連活動—一般用語）
  - ✓ ISO/IEC Guide 98-1:2009（測定の不確かさ—第1部：測定における不確かさの表現の手引）
  - ✓ ISO/IEC Guide 99:2007（際計量計測用語—基本及び一般概念並びに関連用語(VIM)）
  - ✓ ISO/IEC Guide 75:2006（産業オートメーションにおける将来のIEC及びISO標準化のための戦略的原則）
- Systematic reviewの結果、以下のISO/IECガイドの改訂を決定。そのためにISO/TMBとIEC/SMBのJoint Working Groupを設置し、改訂に当たり、WTO TBT協定の付属書3の条項を特に留意。
  - ✓ ISO/IEC Guide 59:1994（標準化のための優れた実施基準）

23

## 分野横断的標準化案件

24

### 6. 高齢化社会対応の標準化に関する戦略諮問グループ（Strategic Advisory Group (SAG)）の設置承認〈TMB Resolution 69/2015〉

- 英国からの高齢化社会対応の標準化に関する戦略諮問グループの設置提案を承認。
- 各TMBメンバーは4つのカテゴリー（消費者、研究機関、産業界、政府）から1名ずつ、最大4名までメンバー候補を登録できることとし、自国外からの専門家を含めることも可能とすることを合意。
- 最終的なメンバー構成はメンバー選定パネルにて決定する。当該メンバー選定パネルは、希望するTMBメンバーから構成。

25

## 7. エンジニアリング・ライフサイクルにおける腐食管理の中・米提案の取扱い <TMB Resolution 75/2016>

- エンジニアリング・ライフサイクルにおける腐食管理（Corrosion control and engineering life-cycle）の新規TC設立提案について、TC156の傘下にSCを設置し、スコープ等の見直しを行うことで承認。

### ✓ 背景

- 当該提案は、ISOメンバー投票では可決されたもののTMB承認投票では、日本を始め主要TMBメンバー国が反対あるいは延期(次回TMB会合での議論を要請)。
- 日本の延期理由は、当該提案のスコープが過度に不明確であり、既存のTC156（Corrosion of metals and alloys）との重複が懸念されること、さらに、具体的にどのような規格を策定する提案なのか、その内容が不明確であること。
- TMB会合の前の週にTC156会合が開催され、その際、米・中から追加の説明資料が配布され、その中で、原子力発電所をスコープから除くことを含め、ある一定の明確化を図る提案がなされ、TC156としては、新TCの設置ではなく、TC156の傘下にSCを設置すべきとの決議を採択。

26

## 8. 機械分野におけるTC活動の調整を行うタスクフォースの設置承認 <TMB Resolution 73/2016>

- 機械分野において個別機械のTCが次々と設置されていることを受け、重複排除、一貫性／整合性確保の観点から相互の調整を図っていくことが必要として、仏がタスクフォースの設置を提案し、満場一致で承認。
- タスクフォースのメンバーは、日本を始め、米、独、スウェーデン、露、韓。議長は仏。
- なお、鑄造機械(Foundry machinery)の新TCの設置が暫定的に承認。当該TCの第一回会議でタイトルとスコープについて明確化し、TMBに報告することを要請。<TMB Resolution 72/2016>

27

## 個別TC/SC案件

28

### 9. TC258 (Project, programme and portfolio management) の議長職の英米の争奪戦 <TMB Resolution 71/2016>

- TC258の国際幹事である米の国際幹事の指名に対して英が異論を唱えたことを受け、TMBで議論。その結果、米の主張を承認。
- ✓ 背景
  - 本プロジェクトの提案国は英国。2010年にTC258を設置する際、英国のアプローチと米国のアプローチの二つの流派があることから、英・米で調整し、英国（BSI）が議長を出し、米国（ANSI）が国際幹事を担うことで合意、TMB決議で当該合意を認知した上でTC258の設置を承認。
  - 英国の議長の9年任期満了を見据え、ANSIが米国から次期議長を指名する旨主張。
  - 一方、英国は、本件は特殊な事情により、設置当時の米・英の合意をTMBが認知しており、現在でもそれは有効であり、TC258の議長は英国から出すことを続けるべき旨主張。
  - TMB会合の議論ではコンセンサス形成に至らず、無記名投票を実施。

29

# 御清聴ありがとうございました

経済産業省 ～「標準化・認証」の紹介ページ

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/kijyun/index.html>

日本工業標準調査会ホームページ

<http://www.jisc.go.jp/>